

活動分野	ステップアップ講座		
タイトル	オンライン講座「SDG sから森林と環境教育を考える」		
実施日時	2021年1月21日（木）19時～21時00分		
実施場所	Zoom		
受講者	30名	F I C会員	31名

活動の内容 Zoom を利用したステップアップ講座の研修

今回の講師は山浦氏。全体を通して、講師は環境問題に対して早い時期から熱心に取り組んでいた印象を強く受けた。最初のつかみとして、最近話題の Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標、以下「SDG s」）を取り上げる。資料の中で開発目標17のうち、特に9つを森林に関係すると思われる項目として取り上げたが、講師は9つの中には入っていないが、開発目標の最初に掲げられている「貧困をなくそう」ということが1丁目1番地であると強調する。そして最近でこそ SDG s が広く社会に宣伝されるようになって



いるものの、環境問題への取り組みは1960年代から世界的に始まっていたと、その歴史の解説に移る。例えば1972年に発表されたローマクラブによる「成長の限界」では、(今日の世界が危機的状況に陥っているわけでないものの)ほとんどの項目がほぼシナリオ通りに進行しつつあるとしたスミソニアン博物館のレポートを紹介した。昨今の SDG s の世界的潮流は歓迎すべきことであるが、地球温暖化のように、現実の問題としては計画目標の達成には至らず、むしろ「再生する速度以上のペースで資源を消費し続けると、世界経済の崩壊と急激な人口減少が2030年までに発生する可能性がある。(ローマクラブ)」という懸念もあるのではないかとこのことを念頭に、環境問題を考えていく必要性を考えさせられた。

後段からは、千葉県の森林の現状と管理について。全国平均に比べて著しく低い千葉県の森林率。森林の野外施設への転用等による面積の更なる減少とそれに伴う生物多様性の喪失。温室効果ガスの増加と森林の地球温暖化防止機能(炭素吸収量の算定)の解説。近年顕著な自然災害と森林管理の問題。森林環境譲与税や、国土緑化推進機構が進める4つのアクションと千葉県などでの事例紹介など、話は多岐に展開された。

そして最後に講師が熱心に語ったのが教育への取り組みの問題。現在環境問題は教科書でも多く取り上げられ、入試問題になるまでになっている。現代の中学・高校生は環境問題の知育は十分に受けており、我々とは異なり知識も有しているのだと。大切なのは、環境問題を自分たちのものと意識させるきっかけを与えてあげることだが、現実なかなか容易なことではない。例えば、講師は実践の場として長年高校生とキャンプを行ってきたが、開発等により自然環境に恵まれた好適地が少なくなり、今では人工的に整備されたキャンプ場の一部を使用するに至っている、とも報告された。今後はF I Cの活動を通じて、次代を担う世代の動機付けの手助けをしていきたいと訴えられ、講義は終了した。

